



スピリット 常中魂

平成28年 10月5日 NO.37

〒311-1114 水戸市塩崎町1016
TEL029-269-2116
FAX029-269-3160
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

赤ちゃんとのわくわく触れ合い体験実施



四日(火)の五・六校時第三学年の生徒を対象として、赤ちゃんとの触れ合い体験が実施されました。この活動は、家庭科の学習の一環として行われたものです。

体験を参観させていただき、何より生徒の笑顔が印象的でした。赤ちゃんに触れ合っているどの生徒の顔にも、優しさと慈しみの表情が見られました。赤ちゃんと接するときの気持ちこそ、人と接するときの基本なのだろうと感じます。

左の写真を見てください。この体験が生徒の心に残る、すばらしい体験であったことが見て取れます。

飛田琉海

私は、赤ちゃんとおふれあって感じたことが沢山ありました。一つは、自分よりも体温が高いことです。抱っこしたときに熱があるのかと思ってびっくりしましたが、お母さんたちにきいたら、「赤ちゃんの平均体温は三十七度くらいだよ」と教えてくれて、少しほっとしました。

もう一つは、赤ちゃんはお母さんのことが大好きなんだということです。一緒に遊んでいても、少しママそぶが立ったりすると目で追って見ていました。自分もそうだったのかと思うとちょっと恥ずかしいです。

この体験で、赤ちゃんの遊び方や、身体についてなど、多くのことを学びました。この体験を生かして、これからの家庭科の勉強もしっかりやっていきたいと思いました。

福原 直人

僕は、この体験で様々なことを学びました。まず、赤ちゃんの性格がそれぞれ違うということです。例えば、四人の赤ちゃんがいたら、親子など、人それぞれで、赤ちゃんの頃からの性格がはっきりと分かってきました。赤ちゃんの育ちや、変な癖や、夜泣きや、歯が生えたり、いろいろな大変なことがあると、僕は、この体験を通して、上記の事だけでなく、もっとうまくこのことを学びました。この貴重な体験で学んだことをこれから人生の中で生かせるように努力したいと思います。



2018/10/4 11:25am



2018/10/4 11:25am

一年二組の音楽の学習風景より

S (生徒を表す) 「今日の練習では、男子パートの声を頑張りたいです。」

T (先生を表す) 「具体的に、男子パートの何を頑張りたいの。」

S 「男子の声が全体的に小さいよ。」

S 「男子と女子が別れるところを、男子がもう少し、しっかり声を出して歌って欲しいなあ。」

T 「そうね、女子ばかり聞こえて男子の声が聞こえなかったらバランスが悪いよね。」

S 「女子パートも頑張りたいところがあるよ。」

T 「なるほど、どうしたらいいかねえ。」

S 「アルトを小さくするという考えより、他のパートの声を大きくするという考えの方がいいんじゃないの。」

T 「なるほど、アルトが大きいというより、ソプラノが弱かった。だからソプラノを大きく、ということだね。じゃあ、ここは調整だね。」

すばらしい学習風景だと感じます。クラスの意見をまとめ、合唱を創り上げる。やらされるのではなく、自分事として創り上げようとする意欲を、生徒の表情から感じることができました。

一年二組の音楽の学習風景より

